

## 炉辺の枕（4）

『記憶せよ、抗議せよ、そして生き延びよ 小森陽一对談集』

傑作映画を多角的に紹介しています

美賀多台 つだわたる

対談の本が好きです。一冊で二人の考え方が分かるのと、話し言葉は平易です。他にこのシリーズの2冊目『しかしそれだけではない』や『三国連太郎・沖浦和光対談「浮世の虚と実」「芸能史の深層」』『対談 笑いの世界 桂米朝×筒井康隆』『天野祐吉対話集さよなら広告さよなら日本』『自然の秘密を探る 不破哲三対談集』『しなやかな日本列島のつくりかた 藻谷浩介対話集』も読んでいます。

他にも『住井すゑ対話集』全3巻はちょっと読んで、あとは積読状態です。これはかなり昔に買ったもので、その時は仕事などに必要な本を読まなければならない心身の状態で、この本ことは忘れていました。対話相手は文化芸術の第一人者たちです。これを契機に読もうと思います。

『記憶せよ、抗議せよ、そして生き延びよ』は小森陽一と井上ひさし、黒木和雄、渡辺えり、ジャン・ユンカーマン、井筒和幸、高畑勲、班忠義、山田洋次の対談です。企画発行はシネ・フロントという映画雑誌ですから、映画を中心にした話になっています。そして九条です。

いずれも面白いですが井上ひさしと黒木和雄の気になったところを書きます。

### 井上ひさし

井上ひさしとの対談の見出しは「記憶せよ、抗議せよ、そして、生き延びよ—原爆は今も、爆発し続けている。『父と暮らせば』と原爆、戦争、憲法九条」です。

井上ひさしの戯曲の映画化『父と暮らせば』（監督：黒木和雄、主演：宮沢りえ、原田芳雄）の真ん中に置いて語り合います。

芝居も映画も大変な傑作ですが、二人から感想、評価が出ます。映画はほとんど戯曲のとおりだが、台詞の違いは一つ「たしかに、お前は人がたまげてるような美人ではない。けどよく見れば愛嬌のあるいい顔立ちをしてる。それは俺の手柄だ」の前半を映画はカットしました。

そしてヒロシマナガサキ、戦争全体、憲法、現在の課題と話題は広がります。

井上ひさしは、この戯曲を書くとき「右翼、左翼、すべてに関係なく、出来るだけ最小の「親子」という単純な形にして、そこだけを書こう」というスタンスです。

だから普遍的に、この芝居と映画には世界中の人々の胸を打つ力があると思います。



## 黒木和雄

続いて『父と暮らせば』の監督、黒木和雄さんとの対談です。見出しは「生き残った者の死者に対して申し訳ないという思いの“向き”によって戦争の後の生き方が変わってくる。私にとって戦争とは」でした。

黒木和雄は、勤労働員の飛行機工場で働き、空襲を受けます。15才の時です。「クラスメートはほとんどみんな死にました。生き残った同級生とその日のことを話し合うと、彼らは当然、負傷した友人を介抱したり、病院に担ぎ込んだりしている。でも私は恐怖のあまり、友人が即死状態にいる現場から無我夢中で逃げて、防空壕に入って震えていた。そのことが僕の中で、年を取るとともに大きな問題になりまして」「友人を語ったり、人間の誠実さを語ったり、約束を語ったりする資格が自分にはない」と語りました。



**簡単に他の人も** 以下の対談については見出しだけを書いています。

★渡辺えり「対話によって成立する演劇は、武力攻撃による外交手段に反対します。演劇は戦争に反対します。「非戦を選ぶ演劇人の会」と憲法と」。

★ジャン・ユンカーマン「いま憲法を活かそうという運動をとおして一人ひとりが民主主義的に生まれ変わりつつある。リーズンのある世界が生まれつつある。『映画 日本国憲法』:世界から見た私たちの憲法」。

★井筒和行「感覚と言葉が同時にあったあの時代 完全に思考停止状態の現在 この映画はそういう日本社会へのパッチギだった。『パッチギ!』の時代と現在」。

★高畑勲「詩人プレヴェールが一貫して問題にしてきた「戦争」と「社会構造の垂直性」一貫にはめられ続けているにもかかわらず、また貫にはまってしまう現実を『王と鳥』は私たちに見せてくれる。『王と鳥』をめぐって」。

★班忠義「班監督が積み重ねてきた人と人との関わり合い自体が、このドキュメンタリーの中で性奴隷にされた女性たちと旧軍人たちとを出会わせているのだと思います。『ガイサンシーとその姉妹たち』をめぐって」。

★山田洋次「同時代的に懐かしみ、心を痛めながらこの映画を見る観客たちが、改めて若い世代に戦争体験をどう語っていくのかということが大事なことなのだと思います。『母べえ』を語る」。

★このシリーズの2冊目『しかしそれだけではない』では桜井均「『しかしそれだけではない。加藤周一 幽霊と語る』加藤周一のエスプリ」。

★斎藤とも子「井上ひさし『父と暮らせば』と映画『アオギリにたくして』被爆者と出会って」。

★海南友子「『いわさきちひろ～27歳の旅だち』人間いわさきちひろ」。

★ヤンヨンヒ「『かぞくのくに』兄と、父と母と、わたし」。

★降旗康男「『少年H』『ホタル』『生きる』と教えてくれた先生と特攻隊員」。

こうやって見出しだけを書いても面白そうです。是非読んでみてください。